租推協だより

2026年3月 第13号
■発行責任者
小豆郡租税教育推進協議会
会 長 坂東民哉
■編集責任者
小豆郡租税教育推進協議会事務局
森岡 寛
■制作責任者
向進舎印刷株式会社

令和７年度 中学生の「税の作文・税の標語」表彰式

令和７年度「税の作文・税の標語」表彰受賞者

令和７年11月13日、土庄税務署において、小豆郡納税貯蓄組合連合会及び小豆島間税会と共催で、中学生の「税の作文・税の標語」表彰式を開催しました。

○租税教育の普及・充実に向けて

小豆郡租税教育推進協議会
会 長 坂東民哉

小豆郡租税教育推進協議会は、平成三年の設立以来、次代を担う小豆郡内の児童・生徒に対し、国及び地方公共団体の財政を支える租税について正しい知識を養うとともに、納税が国民の重要な義務であるという遵法の精神を育成することを目的として租税教育の普及・充実に向けて各種活動を行っているところです。その活動内容としまして、租税教室の開催や租税教室講師養成研修の実施、「税に関する高校生の作文」、中学生の「税についての作文」及び「税の標語」並びに小学生の「税に関する絵はがき」の募集の支援などを行ってまいりました。

本年度は、昨年度に引き続き、小豆郡内のすべての小学校、中学校及び高等学校で租税教室を開催することができ、また、前述の各種税に関する作品の募集に対し、すばらしい作品を多数ご応募いただきました。これもひとえに皆様方の租税教育に対する深いご理解と多大なるご協力の賜物であり、厚くお礼申し上げます。

最後になりますが、引き続き、来年度以降も教育関係者、税務行政関係者及び関係民間団体が一体となって、租税教育の更なる充実に努力し、租税教育活動をより実りあるものにしてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成７年度の主な事業

4 月	5 月	6 月	11 月	1 月	2月	3月	通　年
○「租税教室講師養成研修」の開催（小学生向け）	○定期総会 ○「中学生の税についての作文」募集支援 ○「税に関する高校生の作文」募集支援	○「租税教室講師養成研修」の開催（中学生向け） ○中学生の「税の標語」募集支援 ○小学生の「税に関する絵はがき」募集支援	○税に関する作品展（「作文」・「標語」・「絵はがき」）優秀作品展示 ○税の作文表彰 ○税に関する標語表彰	○税に関する絵はがき表彰	○租税教室アンケートの実施	○「租推協だより（第十三号）」発行	○小豆郡内全ての小・中・高等学校において租税教室の開催及び講師派遣

租税教室開催風景

（敬称略）

07.06.03　星城小学校　講師：山西　正宣
（公社）小豆島法人会

07.06.13　苗羽小学校　講師：照下　修平
小豆島間税会

07.06.23　安田小学校　講師：葛西　孝通
小豆郡納税貯蓄組合連合会

07.07.01　土庄小学校　講師：田川　幸三
小豆青色申告会

07.07.01　土庄小学校　講師：藤本　智子
（公社）小豆島法人会

07.07.02　豊島小学校　講師：森本　楓加
土庄町役場

07.07.02　豊島中学校　講師：森岡　　寛
土庄税務署

07.07.03　土庄中学校　講師：(公社)小豆島法人会 青年部
（公社）小豆島法人会　青年部

07.07.04　小豆島中学校　講師：(公社)小豆島法人会 青年部
（公社）小豆島法人会　青年部

07.07.08　池田小学校　講師：平木 真奈美
小豆島町役場

07.12.12　小豆島中央高等学校　講師：岡　　英一
四国税理士会土庄支部

令和７年度 租税教育推進校等表彰

租税教育の推進及びその基礎整備に特に功績のあった学校及び団体に贈られます。

土庄税務署長表彰
土庄町教育委員会

（左）表彰を受ける土庄町教育委員会　港教育長
（右）土庄税務署　新地署長

高松国税局長表彰
（公社）小豆島法人会

（左）表彰を受ける（公社）小豆島法人会　山西会長
（右）土庄税務署　新地署長

令和７年度 税についての作文

本年度も、高校生及び中学生の皆さんから、税の作文を多数応募いただきました。
「税に関する高校生の作文」は小豆島中央高等学校から126編、「中学生の税についての作文」は、小豆郡内のすべての中学校から165編の応募がありました。応募に当たってご指導いただきました関係者の方々に心から感謝申し上げます。
その中から受賞された方々をご紹介します。

（敬称略）

○「税に関する高校生の作文」表彰受賞者

土庄税務署長賞	小豆島中央高等学校	２年	西口　桃華

○「中学生の税についての作文」表彰受賞者

四国納税貯蓄組合総連合会長賞 小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　最優秀賞	小豆島中学校	３年	橋本　心春
土庄税務署長賞	土庄中学校	３年	億　知宙
土庄税務署長賞	土庄中学校	３年	丹生　理子
土庄町長賞	豊島中学校	３年	竹中　涼音
小豆島町長賞	小豆島中学校	３年	森　咲心
小豆郡租税教育推進協議会長賞	土庄中学校	３年	濱中　優花
小豆郡租税教育推進協議会長賞	小豆島中学校	３年	原田れいる
小豆郡租税教育推進協議会長賞	小豆島中学校	３年	松本　旺真
四国税理士会土庄支部長賞	小豆島中学校	３年	白句　大翔
小豆島法人会長賞	小豆島中学校	３年	友永　蔵夢
小豆青色申告会長賞	土庄中学校	３年	三枝　和貴
小豆島間税会長賞	小豆島中学校	３年	小野　誠司
小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　優秀賞	土庄中学校	３年	岡田　悠生
小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　優秀賞	小豆島中学校	３年	長瀬　悠加
小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　優秀賞	小豆島中学校	３年	山下　乃愛
小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　入選	土庄中学校	３年	岡野　紗依
小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　入選	豊島中学校	３年	永井　海咲
小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　入選	小豆島中学校	３年	坂下　夢実

優秀作文紹介

土庄税務署長賞

「小豆島のそうめんと税金」

香川県立小豆島中央高等学校　2年　西口桃華

私の家族は小豆島で代々続く手延べそうめんづくりをしています。家族は毎日そうめんを一所懸命に作っています。代々受け継がれてきた伝統を守る姿を小さなころから見てきました。私はずっとそれが当たり前だと思っていました。夏になると多くの観光客が島を訪れ私の家族の作ったそうめんを食べてくれます。「すごくおいしかった」「また食べたい」と言ってくれるたびに、私の家族の仕事が誰かの幸せにつながっていることを実感します。けれど、そうめんを作って売るというこの当たり前のような日常は、実はたくさんの「見えない支え」によって成り立っているのだとある時気付いたのです。

そのきっかけは学校の社会の授業でした。私は最初、「税金って、ただ取られるだけのものじゃないの？」と思っていました。けれど調べていくうちに税金は道路や港の整備、学校や病院、福祉や防災など、私たちの生活のあらゆる場所に使われていると知って驚きました。特に心に残ったのは、税金が地域の産業振興や観光支援にも使われているということです。例えば、二〇二三年には小豆島で「そうめんサミット」という全国的なイベントが開催され、多くの人が島に足を運びました。全国のそうめんが集まり、手延べそうめんの魅力を再発見してもらえる機会となりました。このサミットの開催にも、自治体の支援や広報活動があり、そうした取り組みの裏には税金が使われていると知りました。実際にサミットに訪れた観光客が家族が作ったそうめんをおいしそうに食べている姿を見ると誇りに思います。その背景には税金によって整備された道路や港、案内看板や清潔な公園など安心して観光できる環境があると気付いたとき、私は初めて、税金が自分たちの暮らしや仕事にも深く関わっているのだと実感しました。

税金は、ただ「取られるもの」ではなく、地域を支え、人々の笑顔を生む「見えない力」だと思います。そうめんづくりは家族の誇りであり、小豆島の誇りです。私はこの伝統産業を絶えさせないように自分にできる精一杯をしたいです。他にも、税についてももっと関心を持ち続けていきたいです。

四国納税貯蓄組合総連合会長賞
小豆郡納税貯蓄組合連合会長賞　最優秀賞

誰かを助ける「思いやりのお金」

小豆島町立小豆島中学校　3年　橋本心春

私は、税について知るまで、「税＝お金を取られるもの」というイメージしか持っていませんでした。けれど、調べたり租税教室でお話を聞いたりすると、税は私たちの生活に深く関わっていて、なくてはならないものだと知りました。

日本には約五十種類もの税があります。例えば、買い物をするときにかかる消費税、働いたときに払う所得税、物を持っているときにかかる固定資産税などがあります。その中でも、私たちにとって一番身近なのは消費税です。消費税は、商品やサービスを買ったときに払っているので、中学生の私たちも自然と支払っている税金の一つです。

では、その税金はどこで使われるのでしょうか。調べてみると、消費税は病院や介護のサービス、子育て支援や年金などに使われているそうです。私の家にも祖父母がいて、よく病院に通っています。消費税がこうした医療費の一部を支えていると知り、少しでも祖父母の役に立っていることがうれしくなりました。

しかし、今の日本は少子高齢化が進んでいて、働く世代が少なく、高齢の人がどんどん増えています。そのため、今のままでは将来、私たちの世代の税の負担が重くなってしまうと言われています。税金はみんなの暮らしを支えるために必要ですが、それが私たちの未来に大きな重荷になってしまうのは、大変なことです。

けれど、私は税金に救われていることもたくさんあると思います。例えば、学校で使う教科書が無料なのも、図書館や公園が使えるのも、すべて税金が使われているからです。もし税金がなければ今のような安全で便利な生活は送れないのではないかと思います。これからの日本では、税金について一人一人がきちんと向き合っていくことが大切だと思います。ただ高いから払いたくないと思うのではなく、みんなの生活を守るために使われていることを知り、正しく納めることが必要です。そして、私たち若い世代も、自分たちの未来のために税について考えたり、話し合ったりしていくことが求められています。

税は、誰かを助けるための「思いやりのお金」だと思います。私は将来、大人になって消費税以外の様々な税金も納める立場になったとき、自分の納めた税金が誰かの役に立つことを誇りに思えるようになりたいです。そのためにも、税がどのように集められ、どう使われているのかをもっと知りたいです。知らないままでは、ただ不満を感じて、他人事のように思ってしまうかもしれません。税金について考えることは、自分たちの未来について考えることでもあると私は思います。未来の社会をつくっていく一人として、税と正しく向き合っていきたいです。

土庄税務署長賞

「納税が支える安心」

土庄町立土庄中学校　3年　億　知　宙

僕は今年、租税教室を受けるまで、「税金」というものをあまり意識せずに生活してきました。ときどきいろいろな授業で「納税」という言葉がでてきていて、言葉や意味は知っていても、どこか他人事のように感じる自分がいました。しかし、ある出来事をきっかけに、僕は税金がどれほど身近で、そして大切なものか実感しました。

それは僕がまだ小学四年生頃のことでした。いつも通りに過ごしていたひいおじいちゃんが、お風呂で突然気を失ってしまったのです。僕が「ひいじいちゃん、にしても遅いなぁ。」と思い、様子を見に行くとお風呂の浴槽の中で倒れてぐったりしていました。すぐに祖父を呼び、みんなに知らせ、一一九番通報しました。

数分後、救急車のサイレンが家の前に響き、救急隊員の人たちが担架を持って素早く家に入ってきました。僕は初めてのことで動揺したり、あまりの恐怖心で泣いていました。ですが、隊員の方たちは冷静にひいおじいちゃんの意識を確認し、優しく声をかけながら担架に乗せ、病院へと運んでくれました。

その後、ひいおじいちゃんは浴槽のつかりすぎでのぼせていたことが分かり、数日で元気になりました。でも、あの時の不安と緊張、そしてすぐに助けが来た安心感は、今でもはっきりと覚えています。

あの日のことを振り返っているとき、父がふと言いました。

「救急車ってタダみたいに見えるんやけど、ほんまは一回で数万円かかるんや。それを、町民みんなが払っとる税金でまかなっとんやで。」

僕はびっくりした。

「え？じゃあ僕たちの税金で救急車が動いとん？」

と聞くと、父はうなずいて、

「それだけじゃのうて、病院や学校、道路も全部、税金なんや。」

と教えてくれました。

その時、僕の中で「納税」という言葉が一気に身近なものに感じました。もし税金がなかったら、あのときすぐに救急車が来なかったかもしれない。ひいおじいちゃんが無事でいられたのは、見えないところで社会を支えている人たち、そして税金のおかげだったんだと気づきました。

僕はまだ中学生で、働いていないから納税をする立場には立っていないかもしれないけれど、将来仕事をするようになったら、きちんと税金を納めたいです。自分の払った税金が、誰かの命や生活を支えることになる。そう考えると、納税はただの義務ではなく、誇りを持てる行動なんだと思います。

ひいおじいちゃんの命を救ってくれた救急車と、それを支える税金。あの経験を通して、僕は社会の中で生きるということの意味を、少しだけ理解できた気がします。

土庄税務署長賞

「小さな納税者として」

土庄町立土庄中学校　3年　丹　生　理　子

「エンジェルロードの駐車場が有料化になった。近々、宿泊税も検討しているらしいよ。」両親がそんな話をしているのを聞いて、私の町はそんなに税金をとろうとしているんだという驚きと、多くの税金制度で観光客は来なくならないかなと不安に思った。

中学生の私にとって身近な税といえば買い物時の消費税だ。それら税金が巡り巡って教科書や病院代の負担ゼロといった身近な物に使われているのはなんとなく知っていたが税金の恩恵を受けているという感覚はあまりなかった。ただテレビなので消費税について、多くの人が不満を言っている場面や、たばこ税、酒税、自動車税といったいろいろな種類の税金があり、様々な方面から税を徴収している複雑そうな現状から、税に対してネガティブなイメージがあった。だが、租税教室やある出来事を通しポジティブな物に変わった。

先日、読みたい本の新刊が発売された。私は図書館で借りようとしたら、図書館にはまだないと言われた。すると係の人がリクエスト購入できるよと声をかけてくれた。でも自分一人だけが読みたいかもしれない本を頼んでいいのかと思い、その気持ちを伝えると「あなたも買い物をした時に消費税を払っているでしょ。立派な納税者だよ。」と言われた。その時、私はこの社会の一人の納税者なんだ、とハッとした。納税者というには気恥ずかしい額の小さな納税者ではあるが、税金が身近な場面にも使われていることを体験し、自分たちが払った税金の使い道に興味がわいたのと同時に、巡り巡っている納税の仕組みに私たちは関心を持たないといけないなと強く思うようになった。

私が今まで抱いていた税金は面倒だな、難しそうだなという思いは何に使われているか積極的に知ろうとしなかったからネガティブなイメージを持っていたのだと思う。自分の両親の納めたお金が、部活帰りの真っ暗な歩道を照らす街灯になり、友達と笑って過ごせる義務教育の場を提供してくれたり、と私たちを取り巻く今の生活に直結しているのだと改めて認識したことで、税金で成り立っている生活が前より身近に思えるようになった。税金の恩恵は学生の私たちだけでなく誰にでも平等にふりそそいでいる。少し前はコロナワクチンの予防接種が無料だったり、今だと備蓄米の提供やこれからの災害に備えた砂防等の対策など、私たちの生活は税によって支えられ守られている。

使い道に関心を持てば今まで抱いていた納税のイメージが変わるのではないか。宿泊税も少子高齢化の小豆島にとっては大切な財源だと今は思える。今日も私は一人の小さな納税者として税の使い道に関心を持ち、しっかり納税できるよう学んでいきたい。

土庄町長賞

「みんなに支えられている私の祖母」

土庄町立豊島中学校　3年　竹中涼音

私の父は特別養護老人ホームで働いています。特別養護老人ホームは、介護を必要とする高齢者のために、「終の棲家」となる生活の場を二十四時間三百六十五日提供する施設であり、これは公的に運営されています。具体的には、入浴・排泄・食事などの介護、その他の日常生活のお世話、機能訓練、健康管理及び療養上のお世話も行います。

私の父は、その特別養護老人ホームで、利用者の送迎や介護報酬請求などの事務の仕事をしています。そして、私の祖母はその施設のデイサービスを利用しています。

特養やデイサービスの介護サービスを受けるときは、当然ですが費用がかかります。ただ、介護サービスを利用すると、自己負担額以外の部分は国や市区町村が負担する「介護給付」を受けられるようになるそうです。私にとって身近な、父の仕事とも関係するこの介護給付に税金が使われていると聞いて、興味が湧き、調べました。

父に話を聞きながら、介護給付について調べました。入居者に負担がかかりすぎないように、特養の費用は所得や世帯構成によって負担限度額が決められています。所得が低いほど特養の月額利用料は安くなるようです。介護保険制度の公平性のために、現役並みの所得がある人は二～三割の自己負担に、所得が低い人は一割の自己負担になるように設定されているそうです。具体的には、入居費用六十万円のうち、月額六～十五万円だけの自己負担となるそうです。

介護保険は、社会全体で「介護」を支え合う制度です。これにかかる費用のうち、半分は国・県・市の公費で、もう半分は被保険者の納める保険料でまかなわれています。この介護保険料が、介護保険の運営、例えば特養の保険給付に使用されます。

介護保険制度は、社会全体で介護を支え合うという共同連帯の理念に基づくものだと学びました。私の祖母も週三回、九時四十五分～十五時四十五分までの六時間、ナオミ荘のデイサービスを利用しています。具体的には健康チェックを受けたり、マッサージ機などの健康器具を利用したり、輪投げや風船球入れ、その他色々なレクリエーションをしています。また、色んな人とお話をすることで、とても生き生きとしています。

身近な人が介護給付を利用する姿を見て、介護保険つまり税金を通じて、社会全体に助けてもらっていることを実感しました。大切な家族の健康で明るく生きがいのある生活を守るために、介護給付の原資となる、介護保険料という税金を納めたいと思いました。

小豆島町長賞

「身近な税金について」

小豆島町立小豆島中学校　3年　森咲心

私は学校で税について学んだとき、最初は「お金を取られるもの」というイメージしかありませんでした。でも、調べたり体験したことを振り返ったりするうちに税にはきちんとした仕組みがあって、私たちの生活を支えている大切なものだということが分かりました。

まず、税の仕組みについてです。税は国や地方、公共団体が国の人などから集めるお金のことです。税にはいろいろな種類があり、代表的なものは消費税、所得税、住民税などです。消費税は買い物をしたときに支払う税で中学生の私でも関わりがあります。所得税や住民税は働いて収入を得ている大人が払う税です。つまり、働く人も買い物する人もみんなが何らかの形で税を払っているのです。こうして集められた税は、国や地域のために使われます。

次に税の使われ方について考えました。税は道路や橋、学校や病院など、私たちが安心して生活するための施設をつくったり守ったりするために使われています。また、警察や消防、自衛隊といった、安全を守るための仕事にも税金が必要です。私たちが当たり前に思っている生活の多くは、税があるから成り立っているのだと分かりました。もし税がなかったら道路は壊れたままになり、けがをしてもすぐに病院に行けないかもしれません。そう考えると、税はなくてはならないものだと思いました。

私は小さい頃、税を身近に感じた体験をしました。親と一緒に買い物へ行った時、レシートで消費税という文字を見つけました。百円のおかしを買うと、実際には百十円払わなければいけないことを知り、不思議に思いました。そのことを聞いてみると「その十円が税金で、道路を直したり学校を建てたりするのに使われる」と教えてくれました。自分が買ったおかしの十円がどこかの誰かの役に立っていると思うと、税金が少し身近でありがたいものに感じられました。

これらの体験や学びを通して、税はただ「取られるお金」ではなく、「みんなで出し合って社会を良くするためのお金」なのだと分かりました。今の私はまだ税を払う立場ではありませんが、将来働くようになったら自分も社会の一員としてしっかり税を納めたいと思います。そして、税金が無駄に使われることなく、本当に必要なところへ届く社会になってほしいです。

小豆郡租税教育推進協議会長賞

「暮らしに大切な税金」

土庄町立土庄中学校　3年　濱　中　優　花

「税金」って聞くと難しくて、ややこしいしくみのお金というイメージをもっていた。

でも、最近学校で租税教室があり、消費税や所得税、法人税の仕組みについて説明を受けた。でもやっぱり、難しいなと思ったけど税金について少し興味をもつことができた。

あと、最近テレビをつけたら「トランプ関税」という話題で聞いてもさっぱり分からないニュースが流れていて「結局はどういうこと？」と思っていた。「トランプ関税」も税金のことだから自分の身近なところに影響しているのかもと感じた。

私たちが、豊かで安心したあたりまえの生活ができるようにいろいろな公共サービスが行われていて、この公共サービスを行うための必要な費用は国民が納めている税金によって賄われているそうだ。税金のことについて調べてみると私たちのあたりまえの生活にはたくさんの税金が関わっていた。

教科書が無料で使うことができるのも、校舎の設備や学校の備品もが税金で賄われているそうだ。自分では気づかないところで、たくさんの人たちが税金を納めてくれることでたくさんの子どもたちの教育を支えてくれていた。

例えば、給食費、修学旅行の費用などの費用が大変な家庭は補助制度が使われる場合があると知った。これも税金が使われているそうだ。子どもの教育の場が失われないように税金が暮らしを支えてくれているんだなと思った。

税金について、たくさんのメディアで取り上げられていて、マイナスな事や正しい事に使われていないということをたくさん目にする。だから、税金のことについてあまりいいイメージをもっていなかった。

けど、調べてみると正しいことに使われていたり、みんなが平等に生活を送れるように使われていたりして、自分の中で税金のイメージが変わった。

トランプ大統領が言っていた「関税」というのは、外国から輸入するものにかけられる税金のことだそうだ。輸入した国は物価が上がってしまい、逆の輸出しているアメリカは国の産業を守るためだそうだ。税はたくさんの人に使われるからこそ一番正しい役割でたくさんの人を支えてほしいなと「関税」を調べて感じた。

自分も大人になると税金を払う立場になる。その時、「こんなにお金を取られる必要あるの？」って思うかもしれない。

でも、今私たちが整った環境で教育を受けることができているのは、たくさんの人が納めてくれている税金のおかげだってことを忘れないでいたい。

税を調べたことで税金の役割が自分の中でのイメージが変わってよかった。

小豆郡租税教育推進協議会長賞

「私たちの暮らしと税金」

小豆島町立小豆島中学校　3年　原　田　れいる

「税金」という言葉は、ニュースなどでよく聞くけれど、難しそうだなと思っていました。けれど、税金は自分の生活に関わっているのだと知りました。買い物をするときに消費税を払っていたり、毎日通っている学校に関わっていたりしているのが分かりました。学校では、学校にある机やいす、無料で配布されている教科書など、税金が使われているのだと知りました。他にも学校だけでなく、道路や公園など普段使う場所にも税金が使われていると知り、税金はとても大事だと思いました。私たちが一番身近にある税金は消費税だと思いました。文房具やお菓子などを買うとき、値札には百円とかかれているのにレジで百十円ですと言われたとき不思議に思ったときがありました。けれど、この十円は消費税だということを知りました。消費税は、どこにどうやって使われているのだろうと、気になって調べてみました。消費税は、医療や介護、子育て支援などにも使われていて、これからお年寄りの人が増えている社会では必要な税金なんだと知りました。けれど、毎日食べる食べ物や毎日使う日用品など生活に必要なものにも消費税がかかるから、負担がかかると家の人から話を聞きました。家族が多い家庭やお金にあまり余裕がない人などには大きな負担になるのではないかと思いました。テレビでは、税金の無駄遣いとか少し悪いニュースが流れているのを少し見たことがあります。このようなニュースを見ると、せっかくみんなが払っている税金なのにきちんと使われていないと嫌だなと思いました。これからの社会は、高齢化が進んでお年寄りの人がどんどん増えて、働く人が減っていくと学びました。そうなると、介護が医療などに使うお金がたくさん必要になり、税金を払う人が少なくなって払う人の負担が大きくなるのではないかと思いました。だから、税金の使い道をちゃんと見直したり、無駄をなくしたりすることが大事なのではないかと思いました。まだまだ、税金のことについてよく分からない部分もあるけれど、今のうちから、税金のことについてもっと知っておきたいなと思いました。税金は、私たちの身近なところにあって、私たちの社会を支える大切なものだと分かりました。私は中学生で、まだ税金を払う立場ではないけれど、私たちの生活が税金によって支えられていると知って、他人事として考えるのではなく、自分のこととして考えていきたいと思いました。これから、大人になって税金を払う立場になったとき、何に使われるのかをきちんと知って、これからの社会が、みんなで支え合える社会になっていけば良いなと思いました。

小豆郡租税教育推進協議会長賞

「命を守る炎の中のヒーローと税金の力」

小豆島町立小豆島中学校　3年　松本旺真

真夜中にけたたましく鳴るサイレン。真っ赤な消防車が街を駆け抜け、火災現場に到着すると、消防士たちは迷いなく炎の中へと飛びこんでいく。そんな光景を、ニュースやドラマで誰もが一度は見たことがあると思います。火災現場で命がけで人々を救う消防士たちは、まさに「命を守るヒーロー」です。しかし、このような活動が毎日当たり前のように行われているのは、決して当たり前のことではありません。その裏には、私たちが支払っている「税金」の存在があるのです。

消防署の建物、最新の消防車や救助用の装備、訓練にかかる費用、そして消防士の給料まで、すべてが税金がなかったら、消防士たちは十分な装備も整わず、火災現場で自分の命すら守れないかもしれません。助けを待つ人を救うどころか、逆に消防士自身が危険にさらされることになってしまいます。

火事だけでなく、地震や大雨などの自然災害が発生したときにも、消防は大きな役割を果たします。けが人の救助や倒壊した建物からの人命救助、避難所への誘導など迅速な対応が求められる現場では、経験と装備を使って動ける体制が整っているからこそ、私たちは安心して暮らすことができるのです。

私の家の近くにも消防署があります。前に地域の防災訓練に参加したとき、消防士の方が放水のデモンストレーションをしてくれました。間近で見る消防車は想像以上に大きく、ホースから勢いよく出る水の音に驚きました。そして消防士の方がこのホースを使って人の命を助けていることを実感しました。

税金と聞くと、大人が支払うお金というイメージがあり、私たち中学生にはまだ関係のない話のように感じるかもしれません。でも、税金があるからこそ、火災や災害から人々を守る消防の仕組みが成り立っているのです。つまり税金は私たちの命や安全を守るために使われている。社会全体を支える「みんなのお金」なのです。

将来、私が大人になって働き始めると、きっと税金を納めることになります。そのときには、「これは誰かの命を守るための大切なお金なんだ」と思いながら支払いたいと思います。税金は決して「とられるもの」ではなく、「支え合う社会」のしくみです。消防という尊い仕事を支えるためにも、これからも税金の大切さをしっかりと理解し、考えていきたいです。

四国税理士会土庄支部長賞

「医療に役立つ税金」

小豆島町立小豆島中学校　3年　白句大翔

世の中の税金は、いろいろな使われ方があります。その中で僕が一番気になったのが、病院の医療費です。僕は日常生活の中で怪我をしたりかぜをひいたりして病院にいくことがよくあります。そしてその時に診察してもらったお金や薬代を払わずに帰れると知り、とてもおどろきました。本来なら、僕たちは医療費を払わなければいけません。それなのにどうして僕たち子どもは無償でお医者さんに診てもらうことができるのだろうか。薬をもらえるのだろうか。僕は、子供医療について調べることにしました。

日本には子供医療費助成制度という制度があります。子供が病気や怪我をした際に、医療機関での治療や薬の購入にかかる自己負担分を助成する制度です。対象年齢は、中学三年生までですが、一部の地域では高校生まで助成しているところもありました。これから市や県が税金を使って助成してくれているものですべての地域が同じではないことも知りました。また、子どもの医療費助成は、自動的に受けられるものではありません。この制度を利用するには、まず住民票のある市区町村の役所に「子ども医療費受給者証（乳幼児医療費受給者証）」の交付申請をします。そして、この手続きが終わることで、医療費助成を受け取ることが可能になります。では、この制度がなくなったらどうなるだろうか考えました。僕も最近自転車で転んで、病院に行ってけがを診てもらうことがありました。傷が深かったので、週に、二、三回通院するようになりました。毎回お医者さんに診てもらい、薬やガーゼを交換してもらいました。もしこの治療代が高額であれば、お金の心配なく通院できただろうか。この制度があるからこそ安心して体を守ることができるのだと改めて子供医療助成制度のありがたさを感じました。僕はこれまで、税金について学ぶ機会が少なく、税金が自分たちにどのように関係しているのか知らずにいました。僕たちが暮らす社会を支えるために税金はとても大切な役割をもっていると知り、みんなが安心して生活できるように、そしてすべての人々が平等に受けられるように、そんな社会になって欲しいと思いました。税金の仕組みや使い道について一人ひとりが関心をもつことも大切だと思いました。

令和７年度 税の標語（小豆島間税会 主催）（敬称略）

小豆島間税会　会長表彰

小豆島中学校　3年　荒井温花
「税を知り　納めて守ろう　生活を」

土庄税務署　署長表彰

土庄中学校　3年　植松こまち
「支えるよ　あなたのくらし　その税で」

小豆郡租税教育推進協議会　会長表彰

小豆島中学校　3年　岡文音
「税金は　社会をつくる　幸せの種」

入選

小豆島中学校　3年　松岡のい
「納税で　つくろうみんなで　輝く未来」

入選

土庄中学校　3年　佐伯弥那人
「税金は　豊かにくらす　第一歩」

入選

小豆島中学校　3年　内田珠生
「納税で　思い描こう　未来の笑顔」

入選

小豆島中学校　3年　白木雫
「つなげよう　未来のために　税金を」

入選

土庄中学校　3年　島彩花
「税金を　知って分かった　町作り」

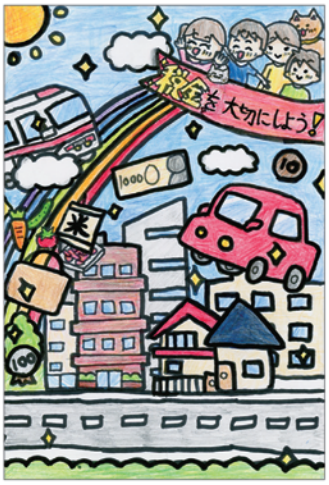
入選

豊島中学校　3年　秋山宗哉
「税金で築こう　僕らのまち」

令和７年度 税に関する絵はがき（公益社団法人 小豆島法人会 主催）（敬称略）

香川県法人会連合会会長賞　最優秀賞

苗羽小学校6年　岡﨑結香



土庄税務署長賞

星城小学校6年　吉永香乃子

小豆郡租税教育推進協議会会長賞

苗羽小学校6年　明田亜美

入選

苗羽小学校6年
大林　咲

入選

土庄小学校6年
丁　愛泉

入選

池田小学校6年
濱口　若

入選

安田小学校6年
髙橋空偉

入選

豊島小学校6年
竹中　奏